

特別史跡

さいとばる

# 西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(II)



1997.3

宮崎県教育委員会



西都原古墳群古墳分布図(風土記の丘部分)

## 序

西都原古墳群は、全国有数の規模を誇る巨大古墳群として昭和27年に国の特別史跡に指定されました。さらに、昭和40年代には「風土記の丘」整備事業の第1号として史跡整備の先鞭をつけ、以来自然景観と田園風景に調和した秀麗な古墳群として高い評価を受けてきました。

さて、県教育委員会では平成7年度より、大阪府池上曾根遺跡と共に文化庁の「大規模遺跡総合整備事業(古代ロマン再生事業)」の補助を受け、新たな整備事業に着手することにいたしました。「風土記の丘」整備事業から四半世紀余りの時期を経て、再び全国に先駆けて整備事業に着手できましたことは、地元の皆様をはじめ関係者の熱意の賜物であるとともに、古代史の謎を秘める西都原古墳群の存在が全国的にも注目を集めている証拠といえます。

次年度の整備に向けて調査された13号墳は大正年間に調査された古墳の中では最古の古墳であり、周堀・葺石・主体部の確認調査を行い、葺石の保存状態が良好であることが確認されるなど多くの成果を上げることができました。地中レーダーで確認され、天井部が崩落する恐れが高い酒元の上横穴墓群の1基を天理大学と共同調査しました。

また土器作り・勾玉作り・古代食作りなどの古代の技術や生活を体験できる西都原古代生活体験館の建設は7年度から着手し、本年度県総合博物館西都原資料館の西側に完成しました。

西都原古代生活体験館の開館により、古代人の技術や生活を体験していただくとともに、引き続き次年度以降実施される西都原古墳群の発掘調査及び保存整備を通じて、古代のロマンに思いを馳せていただければ幸いです。

平成9年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田原直廣

## 例 言

- 1 本書は、文化庁の補助を受け、県教育委員会が平成7年度から平成11年度の5か年に実施する「大規模遺跡総合整備事業(古代ロマン再生事業)」の平成8年度の概要報告書である。
- 2 発掘調査は県教育委員会が実施し、監理は(株)文化財保存計画協会に委託した。
- 3 本書の執筆は、第I～III章を長津宗重が、第IV章を柳田宏一が分担した。
- 4 調査にあたっては、保存整備指導委員会の委員や特別調査員の先生方に御指導をいただいた。また、西都市教育委員会、県総合博物館西都原資料館にはいろいろと御協力いただき、記して感謝する次第である。
- 5 調査で出土した遺物は、県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

## 本文目次

序

例言

第Ⅰ章 調査及び整備の経緯 .....	1
第1節 調査及び整備に至る経緯	
第2節 調査及び整備の経過	
第Ⅱ章 西都原13号墳試掘調査の結果 .....	2
第1節 試掘調査以前の状況	
第2節 調査区の設定と概要	
第Ⅲ章 酒元ノ上横穴墓群 .....	4
第Ⅳ章 西都原古代生活体験館 .....	6

## 挿図目次

- 第1図 西都原古代生活体験館 セミナー棟平面図  
第2図 西都原古代生活体験館 古代構法棟平面図

## 図版目次

- 図版1 13号墳全景  
図版2 13号墳後円部内部主体検出状況  
図版3 湯元ノ上横穴墓群全景  
図版4 7号墓道全景  
図版5 西都原古代生活体験館 全景

# 第Ⅰ章 調査及び整備の経緯

## 第1節 調査及び整備に至る経緯

西都原古墳群（西都市大字三宅）は、一つ瀬川右岸の標高60m（比高50m）の洪積台地（東西2.6km、南北4.2km）に位置し、前方後円墳32基・円墳278基・方墳1基・地下式横穴墓12基・横穴墓8基で構成されており、4世紀～7世紀前半の古墳群である。男狹穗塚・女狹穗塚という九州最大規模の巨大古墳を有することから、当古墳群は日向の古墳時代の核となった古墳群であり、前方後円墳・鏡・埴輪・甲冑・横穴式石室などにヤマト政権との政治的関係が窺える一方では、地下式横穴墓という在地的面も有している。

当古墳群は大正元～6年に30基が発掘調査され、この調査は日本考古学史上本格的な調査であった。その結果、昭和9年には国の指定史跡、昭和27年には特別史跡に指定された。昭和43年度に風土記の丘第1号として古墳と自然が調和した歴史的景観を維持・保持するための整備が行われた。A地区は「森の中の古墳群」、B地区は「草原の古墳群」、C地区は「古墳間での散策」というイメージで整備され、説明板やベンチも自然の材料を利用した。また電柱は設置せず、地下埋設した。なお出土した遺物は半地下式の県総合博物館西都原資料館に展示されている。

しかし、整備後30年近くも経過し、遺跡の保存から活用という視点で、県教育委員会では平成5年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、7年3月に「西都原古墳群保存整備活用に関する基本計画」をまとめた。そして県は平成7年度から5か年計画で文化庁の補助のもと「大規模遺跡総合整備事業（古代ロマン再生事業）」による鬼の窟古墳の復元整備・西都原古代生活体験館などの新しい体感できる西都原古墳群の再整備を進めている。

## 第2節 調査及び整備の経過

再整備に伴う調査として平成7年度に鬼の窟古墳・13号墳、8年度に13号墳・酒元ノ上横穴墓群の調査を行っている。整備としては平成7年度に鬼の窟古墳を行った。また平成7・8年度に西都原古代生活体験館の建設を行った。

7年度に調査・整備された横穴式石室を有する鬼の窟古墳は8年4月から公開された。石室内の公開は毎月第2・4土曜日及び古墳祭りなどのイベントが行われる日に行われ、多い日には1,800人もの見学者があり、平均300人である。

7年度から着手した西都原古代生活体験館は木造平屋・分棟方式としてセミナー棟と実習棟の2棟が完成した。そこでは土器作り・勾玉作り・古代食作りなどの古代の体験ができる施設である。

8年度に調査を行った13号墳は9年度に整備予定であり、主軸長が82.5mの前方後円墳で、大正5年の調査によれば内部主体は長さ7.9mの粘土櫛で、棺台の上に木棺を置き、その上を粘土と河原石で被覆する構造である。出土した倣製三角縁神獸鏡から当古墳群では最古の4世紀後半に比定されている。平成7～8年度に整備のための確認踏査で後円部が三段築成、周堀は西側で確認され、地中レーダーでも内部主体は大正年間に調査された1基だけである。

## 第Ⅱ章 西都原13号墳試掘調査の結果

### 第1節 試掘調査以前の状況

13号墳（西都市大字三宅字原口）は標高54mの台地縁に位置し、台地下の水田面からの比高は41mである。主軸長82.5m、後円部径43m、同高さ7.2m、頂径17m、前方部幅27m、同長41m、同高さ4.8m、くびれ部幅21mの規模の前方後円墳である。大正5年1月の発掘調査によれば後円部の内部主体は長さ7.9mの粘土櫛で、倣製三角縁神獸鏡1・勾玉2・管玉40余り・ガラス小玉110余り・鉄剣1・刀子1が出土している。倣製三角縁神獸鏡は沖ノ島18号岩陰遺跡出土鏡と同范である。なお前方部の調査では内部主体は検出されていない。13号墳の時期としては4世紀後半とか4世紀末、5世紀初頭の時期が比定されていた。

大規模遺跡総合整備事業の初年度である平成8年1月24日から3月末には墳丘の東西南北方向に2m幅のトレンチを設定し、周溝の範囲・規模の確認を行った。一部は墳丘の葺石の調査も行った。後円部の北（T-8）・西（T-7）、くびれ部の東（T-2）・西（T-1）、前方部中央の西（T-5）、前方部の東（T-4）・西（T-3）・南（T-6）に設定した。

T-1トレンチではくびれ部から21mのところで周溝の端が確認され、土師器高环が出土している。T-1～3トレンチでは墳丘部の葺石が確認された。また地中レーダーでも内部主体は後円部の1基のみであった。

### 第2節 調査区の設定と概要

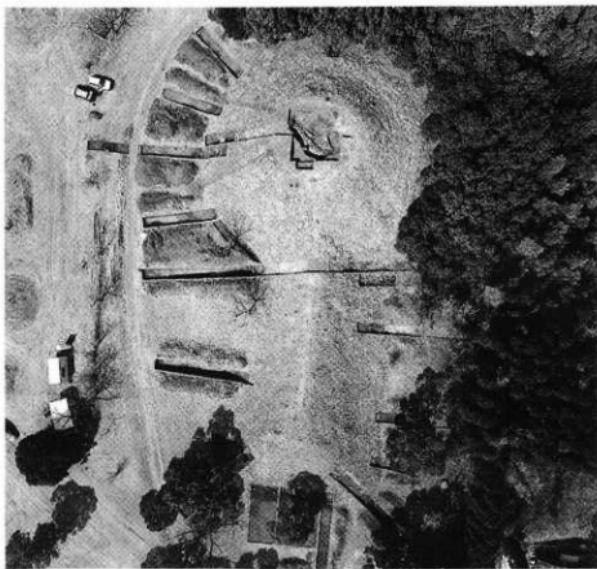
大規模遺跡総合整備事業の2年度である平成8年6月4日から9年3月31日には後円部の内部主体である長さ7.9mの粘土櫛の再調査を中心として、墳丘の葺石の調査も行った。

調査の結果、T-7によって後円部が三段築成、T-1によって前方部が三段築成であることが判明した。T-8・13・17では横方向に並べられた根石が確認された。またT-1・17では一段目のテラスの転換点が横方向に大型の石を並べているのが確認された。

墓壙の規模は長さ930cm、幅620cm、深さ180cm、粘土櫛の上を覆う河原石の範囲は長さ790cm、幅200cmである。

河原石群の中心部に灰石（阿蘇凝灰岩・通称高岡石）が置かれており、長さ41cm、幅26.5cm、厚さ6cm、重さ12kgの蓋石を除くと、長さ42cm、幅27cm、厚さ8cm、重さ16kgの碑石が現れた。碑石には「大正五年一月調査 後圓部ノ頂上ヨリ約六尺ニシテ土櫛ヲ 掘ヘル石堆ニ達シ内部ヨリ漢鏡一面 螢翠勾玉二個細形管玉若干小玉多數 刀子短劍各一口ヲ発見シ短劍ハ旧位シ存置ス 前方部ハ頂上ヨリ六尺堀下ケシモ遺物ヲ認メズ 京都帝国大學文科大學教授 調査者文学博士内藤虎次郎 同

文科大學講師 同 文學士 今西 龍 大正五年一月五日 宮崎縣知事堀内秀太郎」という文が刻字されており、刻字には朱が施されていた。この碑石については『報告書』によれば大正2年1月9日からの復旧工事で「埋込み碑石、灰石、幅一尺、長さ一尺二寸、厚三寸、刻字ハ更ニ朱ヲ以テ染メ之ヲ發掘地底ニ仰置シ別ニ同形ノ灰石ヲ以テ之ヲ覆フ」という記載がある。



圖版1 13号墳全景



圖版2 13号墳後円部内部主体検出状況

## さかもと の うえ 第Ⅲ章 酒元ノ上横穴墓群

### 第1節 確認調査以前の状況

酒元ノ上横穴墓群は鬼の窟古墳の南300mに位置する谷の緩傾斜面（標高62m）に位置する。平成6年度の圃場整備事業に伴う西都市教育委員会の調査<sup>①</sup>で6墓道が検出され、その内3墓道は1墓道2穴のタイプである。6号墓道は全長11.6m、最大幅5.5mで、二等辺三角形プランで、床面は緩やかに下降している。一番奥に1号横穴墓を右側壁に2号横穴墓が造営している。2号横穴墓の玄室は平入り両袖楕円プラン、ドーム天井で、長さ160cm、幅110cm、高さ90cmの規模である。床面には河原石を敷き、熟年女性1体と共に刀子1・耳環2・須恵器环6などが出土した。1号横穴墓は2号と同タイプであるが、玄室の規模が長さ320cm、幅200cm、高さ100cmで2号の倍の規模である。これらはすべて出土した須恵器から陶邑編年のII型式6段階（7世紀前半）に比定されている。この横穴墓群の北側に接近して二重周溝を有する直径14mの円墳が、その外側の周溝から馬を埋めた土壙1基が検出され、周溝から出土した須恵器から陶邑編年のII型式5段階（7世紀前半）に比定されている。

また7年度にも6墓道の北西部で天理大学（置田雅昭教授）の地中レーダーによって新たに1墓道2穴のタイプの横穴墓が確認された。8年度にはその内の1基が玄室の天井部が崩壊する恐れがあつたために天理大学と県との合同で9月6日～16日に緊急調査が行われた。人骨は九州大学大学院比較社会文化研究科（田中良之教授）が特別調査を行った。また文部省科学研究費重点領域研究の遺跡探査班（代表 奈良国立文科財研究所西村 康）の協力を得た。

### 第2節 調査の概要

7号墓道は1墓道2穴のタイプで、一番奥の横穴墓（7-1号横穴墓）と右側壁の横穴墓（7-2号横穴墓）のうち7-1号横穴墓の調査を行った。

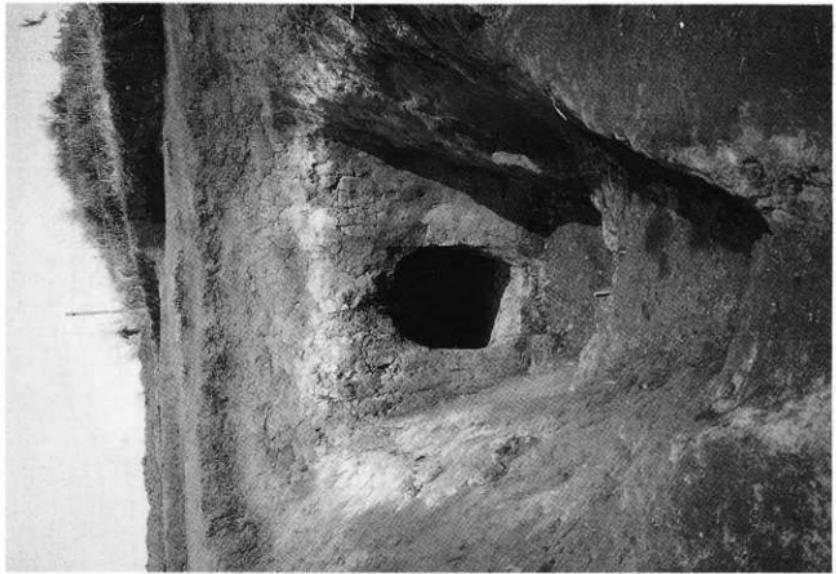
7号墓道は全長11.6m、最大幅5.5mで、二等辺三角形プランで、床面は緩やかに下降している。1号横穴墓の玄室は平入り両袖長方形プラン、ドーム天井で、長さ250cm、幅180cm、高さ100cmの規模である。床面には河原石を敷き、数体分の大腿骨が検出された。須恵器环・高环・耳環などが出土地している。

#### 註1

西都市教育委員会「西都原地区遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第22集 1996



圖版3 酒元/上櫬穴墓群全景



圖版4 7號墓道全景

## 第IV章 古代生活体験館

### 古代生活体験館

#### 1 位置付け

「大規模遺跡総合整備事業（古代ロマン再生事業）」は、歴史を体験的に学習できる施設建設と史跡の整備の大きな二つの柱から成っており、本体験館は、その基本メニューにのっとったものである。古代生活体験館は、西都原古墳群の歴史的理解を深める意味で出土品を展示する資料館と相乗作用をもつ施設である。

#### 2 目的

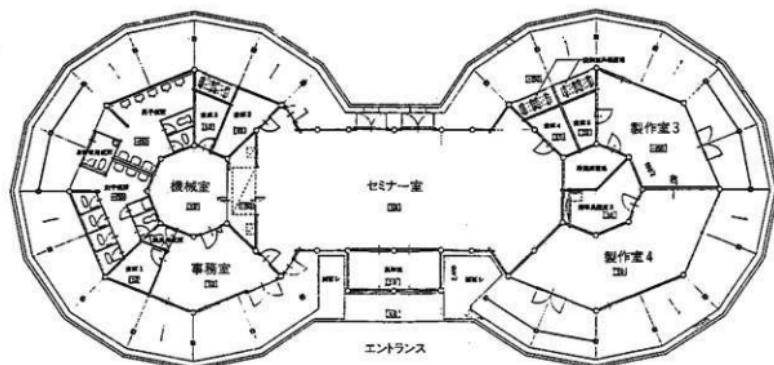
古代生活体験館では、子どもたちが古墳時代の生活を中心に、土器作り・石器作り・勾玉作り・原始機（はた）を使った機織り・古代食作りなどの行為を通して古代の生活を実体験することが目的とされている。

そこで、本体験館は木造の建物とし、古代の雰囲気が出るように設計している。杉や桧を使用し、釘などを極力使わない構造となっている。

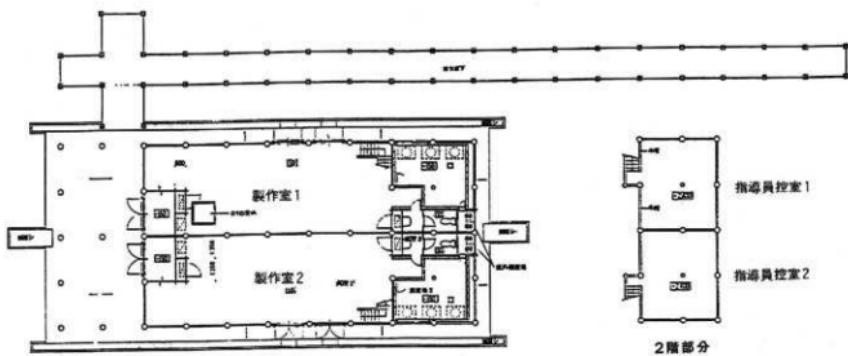
#### 3 内容

使う体験と造る体験の二つに大きく分けられる。

コースとしては、①勾玉作り、②土器作り、③石器作り、④骨器作り、⑤古代楽器作り、⑥⑦古代食作り（2種類）、⑧貫頭衣作り、⑨⑩土器焼（野焼き・雲南焼き）、⑪古代の道具を使った遊びの11コースを体験できる予定である。



第1図 セミナー棟平面図



第2図 古代構法棟平面図



図版5 西都原古代生活体験館全景

## 報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき きいとばるこふんぐん はつくつちょうき・ほせんせいひかいようほうごくしょ					
書名	特別史跡西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書(II)					
副書名						
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	長津宗重・柳田宏一					
編集機関	宮崎県教育委員会					
所在地	〒880 宮崎市橋通東1-9-10 TEL 0985-26-7251					
発行年月日	1997年3月31日					

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西都原古墳群	西都市大字三宅 字酒元ノ上・原 門	45208				199606		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西都原古墳群	古墳	古墳	1. 粘土桿・周堀・ 葺石 2. 横穴墓	須恵器・土師器  土師器・須恵器 耳環	

1997年3月

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(II)

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課